

Reading Fluency 評価基準表

評価	1	2	3	4
表現・声の大きさ	文意に関係なく、一語一語を単なる単語として読む。自然な口調で読む努力がほとんどない。声は小さめ。	ところどころ自然な口調で読むが、全体には及ばない。一語一語を発音するだけで精一杯。声は小さい。	文のかなりの部分を、自然な口調で読む。ときどき感情のない読み方が混じる。声は、全体を通してだいたい適した大きさ。	全体を通して豊かな表現で読んでいる。豊かな表現で読もうという意気込みがある。自身の読解に合わせて、声の大きさや表現に変化をつけている。
抑揚・フレージング	句のつながりや切れ目をほとんど意識せず、抑揚なく平坦に読む。頻繁に単語を一語一語、区切る。	頻繁に二、三語で句切るため、切れ切れな印象を与える読み方。ところにより、文と節が終了したように聞こえない不適切な強調や抑揚で読む。	続きっぱなしの感じ、文の途中での不適切な息継ぎ、ところどころ切れ切れな感じが混じる。強調や抑揚に違和感がない。	節と文の単位の捉え方がおおよそ適していて、全体的に言い回しで滑らかに読む。
滑らかさ	つかえたり、ためらったり、出だしでつまずいたり、単語を下読みしたり、繰り返したりをいろいろな組み合わせで頻繁にする。	文中にいくつかある、つかえたりためらったりする「苦手スポット」で流れが止まる。	ところどころ、単語や構文の苦手な箇所がつかえ、滑らかさが途切れる。	多少のつかえはあっても、たいていの場合、すぐに自分で訂正し、全体的に滑らかに読む。
速度	ゆっくりぎこちなく読む。	少しゆっくりすぎか、速く読みすぎる。	速い箇所と遅い箇所が不適切に混じる。	自然な会話の速度で安定して読む。全体的に適した速度で読む。

Zutell & Rasinski (1991) より訳出